

平成30年度 知事と部課長及び地方公所長合同会議

知事あいさつ要旨

平成30年4月13日（金）県庁行政庁舎 2階講堂

皆さんご苦労さまです。部課長公所長会議に際しまして、職員の皆さんに新年度にかける私の思いをお話しさせていただきたいと思ひます。

あとでご挨拶いただきますけれども、4月1日から山田副知事の後任として、佐野副知事にご就任いただきました。我々特別職も新たな気持ちで、県政運営に取り組んでまいります。

今年度から、発展期が始まりました。復興のラストスパートをかけてまいります。県庁一丸となり、衆知を集めて復興に向けて邁進してまいります。

また、発展期は復興計画後の新しい宮城を形づくる極めて重要な3年間となります。復興需要後や少子化・人口減少社会への対応を考え、産業の活性化や交流人口の拡大、魅力のある農林水産業の創出に知恵を絞り、地域の持続的な発展に向けて攻めの姿勢で取り組んでいただひたいと思ひます。

復興まちづくりは着実に進んでまいりました。今年度は、すべての災害公営住宅が完成し、防災集団移転促進事業も全地区で住宅等が建築可能となる予定となっております。しかし、未だ6,600人余りの方々が仮設住宅等での不自由な生活を余儀なくされておられます。引き続き、被災者の一日も早い生活再建に向け、復興まちづくり事業を市町(しまち)と一緒に進めてまいります。

また、復興が進むにつれ、被災者の置かれている状況が一人ひとり異なつてきており、きめ細かな対応が必要となっております。被災者のニーズに寄り添った、ともに助け合う地域社会づくりを進めてまいりましょう。

その中でも子どもから大人まで切れ目のない心のケアや、地域コミュニティの再構築などのソフト事業については、復興計画期間終了後も息の長い取組が必要と考えております。

平成33年度以降の取組については、被災市町(しまち)の意見を伺いながら、今後、支援の在り方を検討し、必要な財源の確保に向けて、国への要望や県の独自財源の活用も視野に入れた対応を進めてまいります。

また、復興推進のため、今年度も全国の都道府県から多くの職員の支援をいただいております。

それぞれの自治体でも人員が削減されている中で、被災地の復興のために派遣をいただいていることに対して心より感謝申し上げます。慣れない土地での大変な仕事となりますので、どうかくれぐれも健康にはご留意をいただきたいと思っております。

復興はまだ途上ではありますが、今年度は次のような2つの分野の取組に特に力を入れて、発展期に大きな花を咲かせ、多くの県民の皆さんに元気な宮城の姿を実感していただきたいと考えております。

まず、産業振興・観光などの分野におきましては、文部科学省の整備運営パートナーに応募いたしました「東北放射光施設」について、審査を経て6月に決定される予定となっております。わが県が選ばれ、誘致が実現するよう、関係機関と連携して引き続き全力で取り組んでまいります。

次に、将来にわたり安全・安心で安価な水を確実に供給する体制を整えることが必要であります。民の力を最大限活用した上工下水一体の「みやぎ型管理運営方式」の導入に向け、公共施設等運営権者選定の準備を進めてまいります。

また、ジャニーズ事務所の協力のもと「Hey!Say!JUMP」(ヘイセイジャンプ)さんをキャンペーンキャラクターにお願いし観光ツアー企画やPR活動を実施いたします。被災地の観光の回復を図り、過去最大の誘客を目指して取組を進めていただきたいと思います。

民営化3年目を迎える仙台空港については、昨年の利用者が過去最高を記録いたしました。4月20日からは、民営化後初の新規路線となる仙台～出雲線が就航いたします。空港の運営者、地元自治体、経済界と連携し、更なる路線拡充など航空需要の拡大に取り組み、インバウンド客も、もっと増やして、宮城のみならず東北全体の活性化に繋げてまいりたいと考えております。

昨年度のプレデビューで好評でありました「だて正夢」は、参考品種ながらも2年連続の「特A」の評価となりました。今年秋の本格デビューに向けて、

非常に期待が高まっております。また、宮城県産ひとめぼれが1年ぶりに「特A」に復帰いたしました。県産米をはじめ、昨年度日本一を獲得した仙台牛など、魅力ある農林水産物が宮城にはたくさんございます。これらを余すことなくPRし、販路の回復・拡大に向けて取り組んでいただきたいと思います。

さて、本県でサッカー競技が開催されます東京2020(ニーゼロニーゼロ)オリンピック・パラリンピック競技大会まで、あと2年余りとなりました。今年度は、大会推進局長を配置し、現在の推進室を課に格上げして体制を強化し、準備を本格化させていきます。

2020年は、震災復興計画の最終年度に当たります。日本全国、さらには全世界に向けて復興の姿を示し、支援に対する感謝の気持ちを伝えるまたとない機会であります。オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向け、来県者へ最大限のおもてなしができるよう、県を挙げて対応してまいりましょう。

また、県民を勇気づける明るい話題として、宮城県出身の羽生(はにゅう)結弦(ゆづる)さんが冬季オリンピックで2連覇の偉業を果たしました。4月22日に「2連覇おめでとう」パレードを行います。ぜひ、県民の皆さんと一緒に盛大にお祝いし、喜びを分かち合いたいと考えております。

いま、Tシャツを作って販売をしております。もし売れ残るようなことがあれば、皆さん買っていただくご協力をお願いするかもしれません。今のところ、売れ行き順調だそうでございますので、そんなに心配はいらないかと思いますが、余ったときはひとつよろしく願い申し上げます。

次に人材育成の分野についてお話いたします。宮城の将来を担う人材の育成のために、子どもたちの教育環境の整備が重要な課題だと認識しています。いじめ・不登校など心の問題を抱えた児童生徒への支援は喫緊の課題です。

次代を担う子ども達が安心して学び、成長できる環境の整備を進めてまいります。また、世界で活躍できるグローバルな人材を育成するための取り組みを進めます。

さらに、子育て世代を応援することも重要と考えております。待機児童解消のための保育環境の整備や保育補助者の雇用に対する助成などの取組を進め、仕事と子育てが両立できる社会づくりを推進してまいりましょう。

昨年度の公所長会議で、会議や資料の削減をはじめとして生産性を向上させ

るための工夫をお願いいたしました。

昨年度の取組で成果は上がったでしょうか。

今年度は、単純に削減するだけでなく、限られた時間内で効率的に業務を進めるために、本当に必要なもの、やらなくてはならないものを見極めていただきたいと思います。

たとえば、資料は1ペーパー、多くても2ページにまとまっているでしょうか。会議や打合せの終了時刻を決めて効率的な運営を図っているでしょうか。会議の記録を参加者で共有するなど工夫はされているでしょうか。

今のは、ほんの一例ではありますが、職員が常に問題意識を持って業務を改善し続けていくことを定着させる必要があります。この真の意味での生産性の向上と働き方改革は、担当者だけでは進みません。管理職の皆さんの行動にかかっております。なぜ生産性を高める必要があるのか理由を示し、職員が取り組むべきことや改善すべきことを具体的に指示していただきたいと思います。まず、管理職が率先行動で模範となり、組織のモチベーションを高め、職場全体を動かしてください。

今年度、庁内の取組を進めるため、行政経営推進課内に働き方改革の担当班をつくりました。ホワイト県庁を目指してさらに推進してまいりたいと思います。

また、働き方と女性の活躍を全国に発信するフォーラム「WIT(ウイト)2018(にせんじゅうはち)宮城」が10月に開催されます。多くの県民に参加してもらいたいと考えております。これを契機にダイバーシティや働きやすい職場づくりについて、皆さんもぜひ考えていただきたいと思います。

震災から7年が経過いたしました。震災の教訓や災害に対する備えは、時間の経過とともに風化させてはならないものであります。大震災の経験や教訓を世代を超えて伝え続けられるよう、しっかりとつないでまいりましょう。

昨年度は台風などの被害のほか、蔵王山(ざおうざん)で火口周辺警報が発表されるなど、あらゆる危機に対する日頃の備えが大切だと再認識した1年でありました。引き続き、県民の安全と生活を守るための取組を進める必要があります。

常々話しておりますが、年度初めは職員の異動等で危機対応能力が脆弱にな

る時期であります。初動対応の手順などをしっかりと確認をしていただきたいと思います。

震災の際、宮城県は全国の自治体からたくさんの支援をいただきました。他の自治体で何か災害が起これば、今度は私たちが助ける番であります。大震災での支援の恩返しとして、できることは何でも最大限に行動してまいります。

そして、被災した経験と得られた教訓を他の自治体にしっかりと伝えていけるようにしてまいりましょう。

最後に、創造的な復興を更に進め、一人ひとりが輝く元気な宮城を県民の皆さまとともに築いてまいりたいと考えております。

震災復興と、ふるさと宮城のさらなる発展に向けて、今年も今まで以上に、様々な分野で新しいことに挑戦してまいりたいと考えております。

「前向きな行動力」、「明るさ」、「知恵」、「根性」、「風通し」。「前向きな行動力」、「明るさ」、「知恵」、「根性」、「風通し」で、今年も1年がんばってまいりたいと思います。みなさんどうかよろしくお願い申し上げます。

(了)